

《2014年(平成26年)度入学生用》

建築学部

授業科目履修課程表

◆教育課程◆

【O群】 — a) 導入科目
実践基礎科目

【A群】 — b) 総合文化科目
総合教育科目 — c) 自然科学系科目
— d) 外国語科目
— e) 保健体育科目
— f) 自由研究科目
— g) キャリア支援科目

【B群】 — 必修科目
専門科目 — 選択必修科目
— 選択科目
— 卒業研究

建築学部で何を学ぶか

建築学部では、工学をはじめとする、人文科学、社会科学及び芸術などの幅広い学問分野の基礎教育と充実した教養教育により、人間と社会ならびに科学技術を多様な視点から捉える目を養います。そして、学生それぞれの個性を重視して専門的な能力を引き出し、実践的かつ総合的な教育により伸ばすことで、建築と都市環境の創造・再生および持続型社会を支える科学技術の発展を中核的に支える専門家となるための素養を十分に身につける教育プログラムを準備しています。また、新たに形成されつつある建築関連の諸分野に対し、今後求められる専門家となるためには、現実の建築に関係する現象を正しく認識する観察力や分析力が必要不可欠となるため、実験・実習・演習などによる課題の解決を図る経験を通じて、これらの素養を十分に養っていきます。さらに、実社会における建築の設計者や技術者としての役割を体感させることも重視し、ものづくりの現場へインターンシップにより参加することや実社会で活躍している講師による特別講義を受けるなど、社会において果たすべき建築の専門家としての役割の理解を含む広範な知識を身につけることができる内容となっています。

建築学部は、まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科による3学科体制により構成されます。

まちづくり学科は、地球規模の大きな社会状況の変化のもとで、これから私たちがより快適に住み続けられるためのまちの新しい姿について考え、身近なまちに関わる様々な視点（つくり手・住まい手の両方からの視点）を身につけ、多角的なまちの将来像を構想し、実現していく素養を身につけて、持続型社会を支える科学技術の発展に寄与するための方法を習得します。

建築学科は、安全で快適な生活の場を構築することを目的として、大量生産・大量消費時代の新規供給中心の建築ではなく、安全で環境負荷の少ない生活環境を実現する建築の考え方を教育の中心に据えて、これからの新しい建築のあり方を規定するための高度な要素技術（計画、構造、設備、生産）を身につけ、持続型社会を支える科学技術の発展に寄与するための方法を習得します。

建築デザイン学科は、単に美しいだけではなく、機能的にも優れ、快適で使いやすい、人間のための建築デザインとは何かを考え、新しいデザインのあり方を創造・発信するとともに、環境への配慮や人間の生活の質（Quality of Life）の向上も考慮した建築の設計・提案を行うことができる能力を身につけて、持続型社会を支える科学技術の発展に寄与するための方法を習得します。

このように、建築学部におけるまちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科のいずれかの就学経験を通じて、卒業した後は、建築の基本分野となる建築設計、建築施工全般などに加えて、資源や環境の保全、持続可能なまちづくりや都市再生、防災、高齢社会に対応した生活環境づくりなど、いわゆる工学分野の建築学には含まれてこなかった幅広い専門分野で、新しい時代の課題を適切に判断して、身につけた専門知識・技術を生かす指導的な役割（コーディネートしたり、マネジメントしたりする役割）を果たせるような仕事に就くことを目標としています。さらに、大学院へ進むことにより、多様な研究分野が同じ学部の中に共存するメリットを最大限に活かしながら、複合的な新しい発想に基づく研究領域の創造を積極的に進め、新しい得意分野の位置づけを確立しながら、専門性を高めることを目標とすることができます。